



## 京丹後の夢を描こう！ 活かせば伸びる京丹後の素材

新年明けましておめでとうございます。いよいよ平成20年が始まりました。今年、日本という国、そして京丹後市にとっても、選挙に加えて大きな政策選択が連続する非常に大切な1年になります。

早いもので、早川が京丹後市でまちづくりに関わるようになって20年目になります。京丹後市は分水嶺に囲まれた山から海までの500Km<sup>2</sup>が一つの生態系を形作り、古代からの奥深い歴史と四季の変化豊かな自然環境、素晴らしい食材、特色ある地区、産業、そしてパワフルな人材がその枠組みの中に箱庭のように組み込まれています。私はずっと「ここは全国でも有数の活力あふれる地域になる潜在力を持っている」と感じ続けてきました。経済の状況も見方によっては日本の縮図のようでもあり、ガチャマン景気から現在の状況まで、日本の先事例と言えるかもしれません。

もちろん、今の状況がよいとは言えません。それどころか、世界と日本の状況が大きく変化し、豊かさが二極化する中で、歴史上まれに見る厳しい段階に入ったと感じている方も多いでしょう。しかし、これだけの素材を抱えた京丹後市が上昇気流に乗れないのであれば、一体どこの地域が生き残れるのだろうかと思えます。

## 行財政改革と病院の再生は先送りできない課題

もし、京丹後市に大きな潜在力があるとするならば、その可能性を引き出すために、私たちは今何をすべきなのでしょう。早川は、総額700億円もの予算(一般会計+特別会計+企業会計)を運営している市政を再生させることが絶対条件であり、先送りする余裕がなくなった厳しい問題(行財政改革と病院問題)に真っ正面から取り組み、施策や組織を絞り込んで足元をきっちり立て直すことが最優先だと考えます。穴のあいたザルに水をいくら入れても貯まらないのと同じ事です。

そして、この2つの難題にリスクを背負って取り組み、市民に本当の状況と取り得る対策を伝えた上で市民の声を聴き、決断、実行してゆくことが、人と組織を育てることに直結し、厳しい状況にある市民の皆さんを支える力となり、市民満足度を上げ、次のステップとしての地域活性化、産業育成、福祉充実につながってゆくと考えています。

## <知的野生児> 育成で全国トップを目指せ！

加えて、京丹後で育った子供達が国や地域を力強く支え、家族を守ってゆける人材になるためには、教育の更なるレベルアップにどうしても取り組まねばなりません。所得や教育の二極化が進む中、気がつかない地域はどんどん教育のレベルが下がってゆきます。逆に、子供の人数が少ないことを活かして「胎教、出産、保育所、幼稚園、小学校、中学校までを一貫」してとらえ、親育て・子育てに全市をあげて取り組み、<知的野生児>とでも言うべき京丹後の子供像を目指して、お互いの切磋琢磨と助け合いの中で育てゆくような環境を創り出すことが出来ると、私は考えています。

### <京丹後を拓く！> 新春講演会 丹後の地域資源と産業創出 --- 中小企業地域資源活用プログラムを活かして ---

日時：平成20年1月20日(日) 9:00~11:30

場所：アミティ丹後 視聴覚室 無料

講師：岸本吉生氏

現 中小企業庁 経営支援課長

元 経済産業省 環境経済室室長

元 警察庁 刑事局組織犯罪対策部暴力団排除対策官

主催：早川まさてると丹後の未来を語る会

### 中小企業地域資源活用プログラム よそ者も入って、地域の宝を磨きます!!

農林水産品、産地の技術、観光、伝統文化など全国の各地域には経済活性化につながる多くの「宝の山」が眠っている。ただ地元の間人にはなかなか見えないのが難点だ。地域経済を支える中小企業の経営者らが自ら足元を見直し、地域の「強み」となる地域資源を掘り起こし、磨く。マーケティングなどに精通した専門家(よそ者)による事業化のアドバイス体制を整備するほか、資金税制など総合的な支援策で、地域から大都市圏へ、そして世界への売り込みを目指す。

地域資源を活用した新事業に対する支援の意義は、地域間の格差が背景にある。大企業を中心とする景気の回復感には地方の中小企業にまでは届いていない。大都市圏以外での回復の遅れが目立っており、公共投資に依存しない自立型の経済構造への転換が急務になっている。

国は地域資源を活用した新事業を強力に支援し、5年間で1000件の新事業創出を目指す目標を掲げた。経産省は07年度の予算要求で総額101億円を計上。経産省はじめ総務省、国土交通省、農林水産省など6省連携の施策にも位置付けられた。同プログラムは地域のやる気に火をつける仕掛けともいえる。

ブックスタート運動 1、読み聞かせ運動、柳沢運動プログラム 2、一人100冊読書運動、考える力をつけるパズルや文章問題など、今の教育に無理なく組み込める安価で確実な手法があります。教師の事務作業量ももっと減らせるはず。今こそ、京丹後市の田舎型地域生き残り戦略として、子供たちに本気で投資をするべきなのです。

全ての出発点は<ひと>です。教育環境の悪いところに、よい人材や医師、企業が来てくれる時代ではないのです。私は、適切なコンセプトと具体策を持って全力で取り組み、数年で全国レベルの成果を出せるチャンスがあると確信しています。

- 1 赤ちゃんとその保護者に絵本や子育てに関する情報が入ったブックスタート・バックを手渡し、絵本を介して心ふれあうひとときをもつきっかけをつくる活動
- 2 発達段階に合わせた運動で、ここからだ、そして脳のはたらきまで活発にできることが科学的な調査の中で明らかになっている。子供の生きる力を育む実績あるプログラム。

## トップがビジョンを持って決断し、 誇りある京丹後市へ一発逆転ホームランを！

このようなチャンスがあるにもかかわらず、残念なことに、ジグソーパズルに例えるならば、今の京丹後市の施策はピースを適当にばらまいたような状況に見えます。産婦人科の再開やバイオマスタウン構想など、評価すべき施策ももちろんあるのですが、1割引で買える商品券に1000万円もの補助金や、加入率が低迷し借金返済が重くのしかかる下水道新規着工、補助金一律10%カット、単なる自然退職と不補充による人員削減など、改革の先送りやマスコミ受けだけが悪い思いつき・アドバルーン施策が連続している現状です。本質的な組織改革や施策の改革は、それを目指した行財政改革進行計画が全く進行管理されていなかった驚くべき状況の中では望むべくもありません。

今、国や世界の大きな流れを掴み、京丹後の実際の状況に基づいたビジョンを持つことがとても大切です。そのビジョンに沿って一つずつピースを置いてゆけば、ばらばらに見えていたピースが段々と形をなし、図柄が分かるようになってきます。しかし、思いつきでばらまかれたピースは、見かけは良かったとしても、その後始末と正当化に莫大な労力と時間を浪費し、中身が伴わないまま消えてしまうことが多いのです。

トップがなすべき改革をリスクを背負って市民に示すことが必要です。審議会任せではだめです。大きな視点とローカルの実感情報で組み立てたビジョンの元に、市民と職員の活力を育てる小技のピースを配置してゆく。これが京丹後市の潜在力を活かした生き残り策であり、経済活性化に結びついて行く基本であると、早川は考えます。

京丹後市政についてのさらなる具体的情報は・・・

- ・早川にご連絡下さい。少人数でも直接お話に伺います！ tel:0772-79-2020
- ・京丹後市ホームページ議会コーナーに議会議事録・一般質問動画があります！（百聞は一見に如かず！生が一番良いですが、議会の姿を垣間見てください。）
- ・早川のホームページ・ブログをご覧ください。 <http://www.tango-hayakawa.net>

## 市民全体のために全力で頑張る政治家を 市民が自ら支えて育てよう！

1月に入って、一気に4月20日からの選挙へ向けての動きが活発化してきました。私も若手の市議会議員候補発掘などに動いてみるのですが、非常に難しい状況です。市民の皆さんがこれからの議員に望む姿は、フルタイム市のために調査・研究・実践を行う姿だと思います。しかし、子育て世代の優秀な人材が議員報酬だけで活動・生活してゆくのは現状では不可能に近いはず。議員活動を全力でやれば、副業?と両立させるのは時間的にも意識的にも厳しく、そしてこの広大な6町で地縁血縁を超えて1000票を軽く超える支持を頂くのは大変な難事業となります。

浅野史郎前宮城県知事は、「選挙のあり方が、当選後の知事や市長のあり方を左右する。選挙とお金、どういう人が取り巻きになっているかによって、当選後の知事や市長の姿勢が決まってしまう。」と述べています。これは、程度の差こそあれ、議員も同じ面があります。この4年間祈る思いで何度もそういう場面を見てきました。

私は地縁血縁を超えた、直接の利害からではないお名前も分からないたくさんの支持者の方に当選させていただいたという確信があり、市民の皆さんを信じる事が出来たからこそ、自分の信念を貫いた議員活動が出来たと心から感謝しております。

これから4年間、京丹後市が取り組まねばならない改革の作業は、特定の地域や業界、企業、団体、個人の意向に左右されながら出来るような話ではありません。議員も市長もです。イベントの補助金ですら10%一律カットなどという先送りの延長に答えはないのです。組織や動員のあり方など、選挙の姿をよく見れば、市民の皆さんには十分に理解できるはず。選挙は有権者の皆さんの一票一票の積み重ねです。形だけのアドバルーン政策やおかしな実態に気がつかれた市民の皆さんが声を掛け合って動き出せば、そして、気がついた方が数名の方に話をすれば、数千人規模の変化に結びつき、今までの選挙と全く違う姿になることもありうるのです。それはあなた自身にかかっています。

良い市政を継続してゆくためには、良い若手の人材を議会でたくさん育ててゆくことがとても大切なことです。たくさん勉強して、たくさんチャレンジして、たくさん失敗して育ててゆきます。ひょっとすると、チャレンジする若手には今回はとても良いチャンスなのかもしれないと思います。

私は、京丹後市民の良識と再生への意欲を信じています。

平成20年1月11日

早川雅映